

	活動支援団体名	認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ	作成日	2025年2月20日～2025年3月31日		
	活動支援担当者名	中谷・宮	支援期間	2025年2月～2027年2月		
	支援対象団体名	ひのみんなの食堂ネットワーク	2年後の目指す姿	・地域に根ざし、多様な人が集う場を提供できるようにしていきたい。 ・安定した資金と協力を得て事業を展開し、行政や企業と連携して信頼を築きながら、組織基盤を強化し、広報を充実させて、子どもたちの笑顔があふれる地域を目指す。		
	支援団体担当者名	奥野・松村・山下				
No.	実施内容	スケジュール	実施主体	期待する結果(支援対象団体)	期待する結果(むすびえ)	関連する短期アウトカム
7	NWとしてのビジョンとミッションの明確化	2025年3月～8月	支援対象団体	・NWのメンバー内で話し合い、みんなが共感できるビジョン・ミッションを設定する ・団体外にもビジョン・ミッションを伝える形にし、理解をさせていただくことで、資金獲得・広報・人材の巻き込みにつなげていく	・支援団体担当者だけではなく、NWに参加する運営者やNWに関係するステークホルダー（行政、社協、地域企業、ボランティアの方々など）と目指している方向性や考え方について目線があい理解している	支援対象団体が広報FRの基礎を体得し、団体の強みや課題が整理されてドナーピラミッドの作成や中期計画アクションプランの策定など中間支援団体として運営資金を獲得するための戦略が策定されている状態
1	コミュニティオーガナイズング研修	2025年7月	むすびえ	・こども食堂をひろげる人や伝える役割の人たちが増えている、研修を担当している、お金の取り扱い、広報のチームがうまくれている ・広報・FRのきっかけづくりになっている ・私たちのストーリーを作る、そのための私のストーリーを作る	・NWを形成するメンバーそれぞれが、自分のストーリーを語れるようになっており、その思いを関わる人たちが知っている。またその思いも内包した形で、NWとしてのストーリーができ、共感をうむための土台ができている ・NWとしての考えに共感し、現在主体で動いている支援団体対象者以外の活動者が主体的に動くようになるきっかけになっている	支援対象団体をハブに、こども食堂運営者や地域のステークホルダーが連携している状態
12	地域課題解決に向けた戦略の構築	2025年3月～10月	支援対象団体	・地域に増えている外国人の方への対応が検討されている(まずは目の前のことからだがその先に)、児童の課題にアプローチができて、多世代の共生にアプローチができていく ・外国人の対応、児童育成拠点支援(DV・幼いなどの行政からの指定された子どもたちの受け入れ、食事・お風呂・送迎)、キッチンカー(昼の間おじいちゃん・おばあちゃんに食事を持っていくことで地域共生化)	・NWが持っている情報だけではなく、行政や社協、地域の団体などが持っている情報を多角的に収集し、向き合うべき課題を正確に捉えられている ・他のステークホルダーと連携することで、関係性が構築され、これまで以上に信頼されている ・向き合うべき課題に対して、具体的な戦略とアプローチ方法が可視化されている	支援対象団体をハブに、こども食堂運営者や地域のステークホルダーが連携している状態
9	NPO法人を含む法人化の検討	2025年3月～10月	支援対象団体	・法人化されて、信頼されている状態(一旦は自分たちに合った形の検討を行う)	・現行に応じた組織形態の在り方を検討することで、無理なく持続的に運営され関係者にも信頼されている状態	支援対象団体が団体として実行団体になれるだけの自律的な運営・ガバナンス/コンプライアンスの整備ができており、NWとしての運営体制が確定している状態
8	事業の見える化(HP・チラシ・パンフの作成)	2025年10月～12月	支援対象団体	・現在実施している事業の脚印しと見える化を行い、HPやチラシ、パンフ等を作成し、寄付等への導線にする	・ビジョンとミッション、地域課題解決に向けた戦略が誰にでも伝わる形で可視化されている状態 ・寄付であればドナー、事業収益であればカスタマーの動線を描けている状態	支援対象団体が広報FRの基礎を体得し、団体の強みや課題が整理されてドナーピラミッドの作成や中期計画アクションプランの策定など中間支援団体として運営資金を獲得するための戦略が策定されている状態
2	広報・FRセミナー、戦略策定伴走	2025年10月、11月	むすびえ	・●●(イベントなど)をするための大変さが理解されている、いくら必要かが伝わる状態になっている	・地域課題に向けたアプローチに向けて、具体的な取り組みを行うために必要な資源(ヒト・モノ・カネ)が検討できている ・必要な資源に対して、寄付のメニュー化や営業資料の作成など獲得するための具体的な取り組みが検討できている	支援対象団体が広報FRの基礎を体得し、団体の強みや課題が整理されてドナーピラミッドの作成や中期計画アクションプランの策定など中間支援団体として運営資金を獲得するための戦略が策定されている状態
3	ファンドレイジング専門家による伴走支援	2025年11月～2026年3月	むすびえ	・広報・FRセミナー、戦略策定が実施できる状態になっている	・「広報・FRセミナー、戦略策定伴走」で検討した内容が実装され、動き始めている ・動いた結果の改善策などが可視化できている	支援対象団体が広報FRの基礎を体得し、団体の強みや課題が整理されてドナーピラミッドの作成や中期計画アクションプランの策定など中間支援団体として運営資金を獲得するための戦略が策定されている状態
4	基盤整備セミナー開催	2026年2月、9月	むすびえ	・検討した組織形態(NPO等法人化も含む)の組織基盤の整備につながっている	・団体として信頼される水準の組織基盤が整備され、それを対外的に示すことができる	支援対象団体が実行団体として応募するため事業運営が適切になされ、実績が証明できている状態
10	寄付金・応援金の確保(支援企業の開拓)	2025年5月～	支援対象団体	・毎年1～2回のイベント実施および運営費の確保、当日以外の準備費が賄えている状態 ・年間100万円程度(営業回り大変、警備費、25万/1回程度) ・キッチンカーの運営費も、現状はいろんな助成を組み合わせでの対応だが、可能であればその資金も捻出したい	・毎年の必要経費以上の金額を寄付や事業収入等で得られている	支援対象団体が広報FRの基礎を体得し、団体の強みや課題が整理されてドナーピラミッドの作成や中期計画アクションプランの策定など中間支援団体として運営資金を獲得するための戦略が策定されている状態
5	未来対話ワークショップ	2026年12月	むすびえ	・地域の企業がかかわっている意味を知ってもらう ・地域の人たちがこんなことをして欲しいが伝えられる場がある ・学校などつながっていないところとつながれる	・ビジョン・ミッションの策定や地域課題解決に向けた戦略の構築を踏まえ、自分たちのことを地域に知っていたく機会とするとともに、地域のアクターの想いも取り入れながら、休眠終了後も連携し合える関係性構築のきっかけとする	支援対象団体をハブに、こども食堂運営者や地域のステークホルダーが連携している状態
6	学びあいプラットフォーム	2025年4月以降	むすびえ	・他の地域の事例を知ることができる ・いろんな方と接点を持っている	・地域を越えたつながり(オンライン・対面)によって、好事例などの情報共有はもちろん、相互にモチベーションを高められる関係性ができている	学びあいプラットフォームが立ち上がり、本事業終了後も定期的な勉強会が自発的に継続できて地域ネットワーク団体の事業に活用されている状態
13	他機関・学校との連携構築	2025年4月～	支援対象団体	・支援の必要な家族や子どもたち、外国人の対応、不登校等の支援(アウトリーチ)、民間に落とすものではないという認識が改善されている ・学校や先生からと連絡が取れ、信頼が深まる情報交換や連携を構築	・休眠採択団体かつネットワークであるという点をいかし、学校等の団体とばれつとしてが構築していた以上の信頼関係を築くことができる ・学校での講話やイベントでの連携など、新たな連携事例やその兆しが見えている	支援対象団体をハブに、こども食堂運営者や地域のステークホルダーが連携している状態